

4 保育士課程

■ 教育目標

建学の精神をふまえた芸術教育を柱に、しなやかな感性をはぐくまれた保育者・教育者を育成し、幼児教育分野で乳幼児・児童の発達を支援し、社会に貢献できる人材を育成することを目標とする。

1. 保育士課程について

本学では保育士資格の取得を希望する者のために、初等芸術教育学科を対象に保育士課程を設けています。

保育士資格取得には、所定の単位を修得し、保育士課程履修費を所定の期間に納入することが必要です。

ただし、最終年次からの履修はできません。

2. 保育士課程の履修について

保育士課程を履修するには、新年度ガイダンス（4月）の健康診断時に、かならず麻しん・風しんの抗体検査（無料）を受検の上、初年次に実施する保育士資格履修ガイダンスを受けて、保育士課程履修届・誓約書を提出してください。

また、定められた期間に銀行振込にて保育士課程履修費 80,000 円を納入（全額納入または1年次、2年次に分けての半額納入）しなければなりません。未納の場合は保育実習を履修することができません。

なお、保育士課程に関する各自への連絡は掲示によって行いますので見落としのないように注意してください。

また、ガイダンス等の行事にやむを得ず欠席する場合は、必ず事前に教務課へ届けてください。無断欠席の場合は、保育士課程の履修を認めないことがあります。

3. 「保育実習」履修条件について

3年次の保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲを履修し、実際に保育実習を行うには、指定された科目の単位を取得しており、かつ各保育実習指導を履修していなければなりません（指定科目についてはガイダンス時に提示します）。また、実習生とはいえ保育士として最低限の知識と技術を修得していることが肝要なため、1、2年次担当の保育士科目については、すべて単位を取得済みであることが望ましいです。

4. 指定保育士養成施設卒業証明書について

保育士資格取得に必要な科目の単位を修得した者には、本学より「指定保育士養成施設卒業証明書」が与えられます。

※ 保育士課程履修費完納者に限ります。

5. 保育士の登録手続について

保育士として業務を行う場合には申請時点の住民票住所地の都道府県知事に対し、登録の申請をする必要があります。

登録申請書類の受付業務は各都道府県から事務の委託を受けて、社会福祉法人日本保育協会の「登録事務処理センター」で行っています。

また、申請の際には手数料の納入が必要になります。

(1) 一括申請

通常、保育士登録申請ができるのは資格取得後となり、申請書類の受け付けから保育士証の交付まではおよそ2ヶ月程度かかりますが、当該年度の卒業見込者に限り、大学で申請書類を取りまとめて登録事務処理センターへ申請します。

この申請により、当該年度の3月末日付けで都道府県に保育士としての登録が可能となります。

大学での一括申請で保育士の登録手続きを希望する者は、4年次の後期に実施する「保育士登録一括申請ガイダンス」に出席し、所定の申請書類を提出する必要がありますが、ガイダンスに欠席した場合は一括申請はできず、個人申請となります。

(2) 個人申請

一括申請を行わなかった者が、保育士登録を申請する時は各自で登録事務処理センターに「保育士登録の手引き」を請求し、個人で手続きを行ってください。

個人申請の場合、申請の受け付けから保育士証の交付までおよそ2ヶ月程度かかります。

保育士証の交付を受けなければ、保育士としての業務に就くことができません。

保育士課程科目表

告示別表第1による教科目		本学での開講科目名	年次別取得すべき単位数					備考	
系列	教科目		1	2	3	4	計		
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	保育原理	2				2		
	教育原理	教育原理	2				2		
	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉		2			2		
	社会福祉	社会福祉	2				2		
	子ども家庭支援論	子ども家庭支援論	2				2		
	社会的養護 I	社会的養護 I	2				2		
	保育者論	保育者論		2			2		
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	保育の心理学	2				2		
	子ども家庭支援の心理学	子ども家庭支援の心理学	2				2		
	子どもの理解と援助	子どもの理解と援助	1				1		
	子どもの保健	○子どもの保健	2				2		
	子どもの食と栄養	子どもの食と栄養	2				2		
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	○教育課程総論(初等)	2				2		
	保育内容総論	○保育内容指導法総論		2			2		
	保育内容演習	○保育内容(健康)			1			1	
		○保育内容(人間関係)			1			1	
		○保育内容(環境)			1			1	
		○保育内容(言葉)			1			1	
		○保育内容(表現)			1			1	
		○芸術表現演習 I (造形)			1			1	
		○芸術表現演習 II (音楽)			1			1	
	○芸術表現演習 III (身体)			1			1		
	○子ども文化演習				1		1		
	乳児保育 I	乳児保育 I		2			2		
	乳児保育 II	乳児保育 II		1			1		
	子どもの健康と安全	子どもの健康と安全		1			1		
	障害児保育	障害児保育 I	障害児保育 I			1		1	
		障害児保育 II	障害児保育 II			1		1	
	社会的養護 II	社会的養護 II	1				1		
子育て支援	子育て支援	1				1			
保育実習	保育実習 I	保育実習 I			4		4		
	保育実習指導 I	保育実習指導 I		2			2		
総合演習	保育実践演習	保育実践演習 I			1		1		
		保育実践演習 II				1	1		
計			23	20	8	1	52	52	

告示別表第2による教科目		本学での開講科目名	年次別取得すべき単位数					備考
系列	教科目		1	2	3	4	計	
保育の対象の理解に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	各指定保育士養成施設において設定	○発達心理学		2			2	6単位必須
		○幼児理解の理論と方法(幼児)		2			2	
		○言語障害論			2		2	
		○国語Ⅰ	2				2	
		○国語Ⅱ(書写を含む)		2			2	
		○算数	2				2	
		○生活	2				2	
		○体育		2			2	
		○音楽Ⅰ	2				2	
		○音楽Ⅱ			2		2	
		○図画工作Ⅰ	2				2	
		○図画工作Ⅱ			2		2	
		○教育方法論(初等)	2				2	
		○教育相談(初等)			2		2	
		○こども文化論		2			2	
○絵本の表現		4			4			
保育実習	保育実習Ⅱ又は 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅱ又は 保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅱ			2	2	いずれかの組み合わせで3単位必須	
		保育実習指導Ⅱ			1	1		
		保育実習Ⅲ			2	2		
		保育実習指導Ⅲ			1	1		
計			12	14	14	0	40	9

○印の付いている科目は、学科別履修案内のカリキュラム表に記載されている専門教育科目等で、卒業要件単位として計算することができます。

告示による教科目		本学での開講科目	単位数			備考
系列	教科目		必須	選択	計	
教養科目	外国語、体育以外の科目	※ 日本国憲法	2		2	1科目2単位必須
		※ 人権問題論	2		2	
		※ 情報処理概論Ⅰ		2	2	
		※ 情報処理概論Ⅱ		2	2	
		※ 情報処理概論Ⅲ		2	2	
	外国語	※ 情報処理概論Ⅳ		2	2	2科目4単位必須
		※ 英語Ⅰ		2	2	
		※ 英語Ⅱ		2	2	
		※ 英会話Ⅰ		2	2	
	体育	※ 英会話Ⅱ		2	2	
※ スポーツ研究Ⅰ		2		2		
計			6	16	22	12

※ 印の付いている科目は、教養科目のカリキュラム表に記載されている教養科目で、卒業要件単位として計算ことができ、初等芸術教育学科の卒業要件も兼ねています。